

## 平成26年度第2回宮崎県社会教育委員会議 議事録

期日：平成26年7月28日（月）

午後2時～4時

会場：宮崎農業高校 会議室

### 質疑応答 みやざきの子育て・孫育てフォーラム 「青年の資質向上」講座について

**議長** ただ今、説明がありました、みやざきの子育て・孫育てフォーラムと「青年の資質向上」講座についての質問はありませんか。

**委員** みやざきの子育て・孫育てフォーラムの参加者アンケートの中で何か意見があったら教えてほしい。特に若い人が少なかったという声はなかったか。



**事務局** 「若い人が少なかったので、PTA研修会で話していただけたらよかった」、「夫婦で話が聞きたかった」、「もう少したくさんの人に聞いてほしかった」というものや「大変参考になった」、「夫婦間で話し合うことが大切であることがよくわかった」などたくさんの感想や意見をいただいた。

**委員** このフォーラムの後、県内各地での取組の計画を教えてください。

**事務局** 今後は、各教育事務所の計画により、例えば「イクメン・イクジイ」をされている方の実践発表やパネルディスカッションなどを行っていく予定である。

**委員** フォーラムの中で、パネルディスカッションだけではなくて会場からの意見など具体的な応答があるともっとよかったと考える。

**事務局** 今後の参考として承りたい。フォーラムにパネリストであった野口委員に感想を伺いたい。

**委員** 3名のパネリストは、それぞれの立場で意見を言わせていただいた。結果的にだが、会場の皆様方には、「自分たちだけで子育てをしてはいけないよ」ということがわかってもらえたと自負している。自分自身も勉強させていただき感謝している。

**委員** ただ今報告があったようないい企画はあるが、日時も含めていかに参加させるかがポイントであるように強く感じる。8月21日の「青年フォーラム」についても学生たちに声をかけているが、夏休みということがあり、参加者を集めるには、汗をかくことが必要だろうと思う。

**委員** せっかく「家庭教育サポートプログラム」といういいものできあがっているが、これが、なかなかみなさんに浸透していないような気がしている。どこにあるかわからない人もいるように聞いている。発信方法を考える必要があるのではないか。

**事務局** 「家庭教育サポートプログラム」については、関係機関、団体、各学校に配布してはあるが、ご指摘のようになかなか浸透までには至っていないのが現状である。今後は、あらゆる機会を通じて普及を図っていきたい。

**教育事務所** 教育事務所においては、「家庭教育サポートプログラム」を進めるトレーナーの研修会の実施しているところであるが、このプログラムを自分でもできるという方がいれば、教育事務所から届けることはできるので、お知らせいただきたい。

**委員** 参加者を集めることは、大変なことである。参加者を企画の段階から話し合いに入れることが重要ではないか。特に、是非集まっていたきたい団体や代表は、そうしていただくと半分は自分たちの会となり、もっと参加者が増えるのではないかと思う。

**事務局** 貴重なご意見として承りたい。

<b>協 議</b>	<b>みやざきが誇れる青年の人材育成について</b>
<b>協議の柱 1</b>	<b>青年層の横のつながりをどのように形成すればよいか</b>

**議長** 先日、綾町で祭りがあったが、なごやかな雰囲気の中、お互いが助け合いながら行われた。たくさんの青年が参加し、横のつながりや世代間の融合ができ、青年が燃えた祭りであった。このような事例があれば出していただきたい。



**委員** 五ヶ瀬町や日之影町は、「神楽を守る」ことをテーマにして、地域に強い結束力が生まれている。地域住民が顔を合わせる場面がたくさんあると横のつながりができる。

**委員** 青年にやらされ感をなくすためには、主役になることが大事だと考える。自分たちがやるんだという気持ちを持たせることが若い人のエネルギーにつながる。

**委員** 県青年団協議会は、加盟している団体相互の定期的な会議でしかないが、細かく地域を見ていくと、横のつながりが必要となる。特に男性は生産性があるものに興味をもつので、交流会や懇親会、夏祭のイベントに意義を感じている。しかし、本当に横のつながりが必要なのかと何のメリットがあるのかと考える時がある。

**委員** 青島太平洋マラソンなどでは、たくさんのボランティアスタッフが集まるが、今の若者は、イベントなどを行うグループに入って中心的に何かをすることは苦手である。時代背景が違うので、逆説的に考えると青年団活動の必要性はあるのかと考えてみるのもいいと思う。

**委員** 婦人会や青年団は、地域づくりの中心であった。リーダーの育成も進み、この中から県議会議員も出ている。大切なのは、NPO等も含めてみんなで地域づくりをすることである。反面リーダーになるのが嫌だからやめていく人もいるのも事実である。

**議長** 地域から遊離した形の青年団活動は、あり得ない。地域の中に青年がいるという観点から、地域の中における青年の在り方を横の連携の観点から、休憩の後に意見を伺いたい。

<b>協議</b>	<b>みやざきが誇れる青年の人材育成について</b>
<b>協議の柱2</b>	<b>世代間の縦のつながりをどのように形成すればよいか</b>

**委員** 組織を維持することは、大変面倒なことである。組織のためには、組織を維持するエネルギーが必要である。旗振りする人材や共感し合える人材が必要である。



**委員** 青年のネットワークを考える上では、縦・横の関係だけではなく、ななめの関係もあるのではないかと。

**委員** 青年団体は、大きな枠組みの中で時代のニーズに合った目的団体である。青年教育は、リーダーを育成するのか、目的が何なのかがわからない。  
青年の人材育成は、県のリーダーの育成なのか、地域のリーダーの育成なのか。

**事務局** 県のリーダーの育成である。団体の枠を超えて結集したメンバーで協議し、これまでにないようなアイデアが出てくることを期待している。高速道路がつながった今が、宮崎の変わり目である。今やっていることを踏まえつつ、大きな目的にならないと目的は達成しない。事業をとおして得られた人脈や知識等を生かし、地域にもどって活躍してほしいと考えている。

**委員** 地域にリーダーがいるところは、地域は活性化する。リーダーを育てることは、確かなことである。そういったことが都市部はできない。子ども会は、インリーダー、ジュニアリーダーシニアリーダーがあり、研修等を行っている。まずは、旗振りする人材が顔を合わせ、何度も集まることでフェスティバルもキーマンやジュニアリーダーに任せられるようになる。

**委員** 青年団は、必要ではないのではと考える時期があったが、活動を続けている中でそうは思わなくなった。ただ、仲良しだけではなく、いつも率先して活動を行うことによって成長すると

思う。宴会で中締めをできない青年もいるが、成長する中で必要な組織であると思う。

**委員** 学校、家庭、地域は、三位一体であり、青年団の存在価値はあった。意義をしっかりとらえて活動することが大切である。

**委員** 固定化された組織の中でしばられたくないという意識をもつ青年は多いと考える。中学生や高校生の将来の若者にボランティアを募るとすぐに集まる。若者が集まることができる機会をつくるのが大切である。学校教育だけではなく、社会教育の中で新しい時代を生きる資質が身につくと考える。

**委員** 昔は、青年が地域で育ち、結集してパワーアップして地域に帰ったものである。今は、青年が学んだことを地域で生かしかれるかが課題である。そう考えると、40才から60才までの壮年の人たちが重要な鍵をにぎっている。

**委員** 最近、男性が地域に貢献しなくなったように思う。地域に貢献したい気持ちはあるが、できない。うまく人と人とをつなぐ人がたくさんいれば、もっと若者を地域の活動に取り入れることができるのではないかと。

**議長** みやぎが誇れる青年の人材育成については、大変大きなテーマで、今回もまだ議論が十分に尽くされていないので、今後も引き続き議論していきたい。

**事務局** 宴会で中締め一つできない青年の話が出されたが、飲み方の段取りができない人も増えてきているように思う。事業を通して、「つながる、つむぐ、つむいでいく」ことができる人材を育成していくことが大切であると改めて感じた。

(終)